

日時

2024年11月14日(木) 12:40-13:40

会場

第6会場
(国立京都国際会館 2F Room B-2)



第1部

Dry Eye Research Award



オーガナイザー

東医院 副院長
渡辺 仁

ドライアイリサーチアワードは、涙液・角結膜上皮およびドライアイに関する優れた若手研究者の育成を目的として、2005年に開始いたしました。応募対象を過去1年間に国内・海外に発表された学術論文とし、当研究会世話人からなる選考委員により、最新の優れた研究論文著者3名を選出、当セミナーの講演にてベストアワードが決定されます。



人工知能による涙液破壊時間の推定と
ドライアイ診断

演者 慶應義塾大学医学部眼科学教室 清水 映輔



ドライアイモデルラットの痛覚過敏および
慢性疼痛に対する神経障害性疼痛治療薬
ミロガバリンの効果

演者 北海道大学大学院医学研究院眼科学教室 菊地 香澄



新しい指標を用いた
ビデオケラトグラフィによるドライアイ評価

演者 京都府立医科大学附属北部医療センター 眼科 草田 夏樹



第2部

睡眠をはじめとした生活習慣や QOLとドライアイ

超高齢社会の日本において、加齢に伴う眼疾患の多くは増加傾向であり、疾病の有効な予防・治療法の確立は喫緊の課題である。ドライアイは眼不快感や視機能異常などによるQOL低下や労働生産性の低下を生じる加齢性疾患の一つである。これまで、ドライアイ治療の基本は点眼加療であったが、ドライアイは日々の生活習慣や外的環境に影響を受ける多因子疾患であることから、眼局所の治療にとどまらず、生活習慣の改善など包括的なアプローチの有効性が注目されている。本講演では、大規模疫学研究の知見をもとに、運動や睡眠を含むドライアイの包括的治療戦略について皆様と議論を深めたい。



座長

東京慈恵会医科大学
眼科学講座
講師
田 聖花



演者

慶應義塾大学医学部
眼科学教室
助教
羽入田 明子

共催

第78回日本臨床眼科学会
ドライアイ研究会

